

埼玉アートシアター通信

2015 9月-10月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.59

彩の国シェイクスピア・シリーズ第31弾

『ヴェローナの二紳士』

サイ
パリ市立劇場『犀』

ボワヴァン／ウバン／ラリュウ

『En Piste - アン・ピスト』

インバル・ピント&アヴシャロム・ポラック

『DUST - ダスト』

マリア・ジョアン・ピリス

今井信子



80歳記念イヤー、そして、その先へ
蜷川幸雄 Interview

2015 9月-10月

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.59

CONTENTS

- 03 〈PLAY〉 **80歳記念イヤー、そして、その先へ**
蜷川幸雄 Interview
- 06 〈PLAY〉 シェイクスピア最初期の喜劇、きらめく若者たちの恋と友情
彩の国シェイクスピア・シリーズ第31弾
『**ヴェローナの二紳士**』
オールメールに挑むキャストInterview
- 08 〈PLAY〉 弱く脆い主人公が、抵抗する強さを見いだす姿に感銘を覚える
パリ市立劇場『**犀**』
エマニュエル・ドゥマルシー＝モタ Interview
- 10 〈DANCE〉 シャンソンで踊り、紡がれる
ボワヴァン／ウバン／ラリュエ
『**En Piste**—アン・ピスト』 Interview
- 12 〈DANCE〉 混沌の世界に残る希望
インバル・ピント&アヴシャロム・ポラック
『**DUST**—ダスト』 Interview
- 14 〈MUSIC〉 ピリス + 若手音楽家 + 聴衆が「シェア」する音楽
マリア・ジョアン・ピリスの
パルティトゥーラ・プロジェクト
- 16 〈MUSIC〉 私のために書かれた曲を伝える—それが私の使命
「次代へ伝えたい名曲」第5回 **今井信子** Interview
- 18 REPORT 劇場へようこそ!
- 19 REVIEW
- 20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
- 23 INFORMATION
- 24 〈COLUMN〉 岩松 了 連載「どっちつかずの天使」

[表紙] 蜷川幸雄 (2014年8月彩の国さいたま芸術劇場にて) Photo ©細野晋司

編集 ©川添史子、榎原律子 デザイン ©柳沼博雅

©公益財団法人埼玉芸術文化振興財団 Published on 15 September 2015 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation

*掲載情報は、2015年8月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



2014年8月彩の国さいたま芸術劇場にて
Photo ©細野晋司

80歳記念イヤー、そして、その先へ

蜷川幸雄

Interview

細く長くか、太く短くか。つい私たちは、人の生き方をそう二分してしまう。
しかしまれに、ピカソや葛飾北斎、鶴屋南北のように太く長く芸術に生きる才能がいる。

昨年11月、公演先の香港で体調を崩して緊急入院、
それからは車いすと酸素吸入器がパートナーになったものの、
驚異的な速さで現場に復帰して創作に打ち込む蜷川幸雄。
この人も間違いなく、太く長く芸術と格闘しながら生きている。
その偉業に敬意を表した〈80歳記念イヤー〉の上演作品について語ってもらった。
蜷川と同時代に生きる幸福を、改めて噛み締めた。

取材・文 ● 徳永京子 (演劇ジャーナリスト)

「年齢を言われるのは構わないんだ、事実だから。ただ、それをわざわざ(声高に)やるのは、アイドルがファンを集めて誕生日パーティーをやるみたいで、祝ってもらって喜んでよ、あのバカ、と思われるのが一番恥ずかしいんだよ」

開口一番、〈蛭川幸雄80歳記念イヤー〉についてこんな言葉がこぼれ出た。羞恥心が人一倍強い人らしい言葉だが、それでもこの名称にゴーサインを出したのは、「自分一人で仕事ができるわけじゃないからね。それが感謝の気持ちになるなら、時には恥ずかしいのも我慢しなきゃいけないかなって、最近思ってるわけ」

しかし実際のスケジュールは、照れている暇もないのではと思うほどぎっしりだ。今年に入って初日を開けたのは、藤原竜也主演でロンドン公演も行った『ハムレット』、さいたまネクスト・シアターの『リチャード二世』、再々演で世界5都市を回る『海辺のカフカ』、寺山修司作の音楽劇『青い種子は太陽のなかにある』で、秋以降も、その名を世界に刻んだ『NINAGAWA・マクベス』、シェイクスピア作品を男性キャストだけで演じる『ヴェローナの二紳士』などが控える。

「新作はやっぱり大変だね。昔からどの作品も、これで本当に大丈夫なのかと不安を抱えながらやってきたけど、近ごろは体力の問題もあるから。『リチャード二世』の時は自分でも、俺、まだまだいい演出家だな、と思ったけど(笑)」

同じく新作だった『青い種子〜』は、「寺山さんが若い時(28歳)に書いたから、熱量はあるけど話は単純なんだ。そこをどう見せるかを考えた。それから僕の(演出の)構図で言うとね、寺山さんの身をよじるような社会的変革への夢は、荒井由実

(に象徴される経済的に豊かな時代)の登場で吹き飛ばされたと思う。ベルリンの壁、あれね、僕がベルリンで実際に見た翌日に崩れたんだよ。そうすると、ためえの想像力なんて大したことないし、社会主義の夢はロマンチックだったんだって自己嫌悪がある。それを込めたつもり」

冒頭の羞恥心と同様、自省はこの人の創作の根底にずっとある。大学2校で名誉博士号、さらに名誉大英勳章第三位と、本場のイギリスで大きな評価を得ながら、シェイクスピアはいまだに巨大な存在でわからないと話す。

「俺はやっばり、川口の洋服屋の息子だからさ、そんなのが偉そうにシェイクスピアを演出するってことに対する気恥ずかしさがあるんだよ」

巨大な仏壇をセットにして、死者との対

話の場所を舞台上に出現させ、観客の度肝を抜いた『NINAGAWA・マクベス』のアイデアも、その意識から生まれたと言う。

「両親や兄貴に、こんな俺が偉そうにすみません。その代わりに、あなたたちに分かるシェイクスピアをつくります、と手を合わせる気持ちはずっと持っている。僕がイギリスで評価されているとしたら、シェイクスピアはどんなやり方をしたってユニバーサルなものになるんだという彼らの自信を満足させたんじゃないかな。まあ、それを理解して評価するのがヨーロッパの粋だと思うんだけど」

いや、『NINAGAWA・マクベス』上演の理由の一つを「美術でね、前線の陣地に幕を張ったんだけど、ちょっとシワが寄っていたんだよ。それが記憶の中でずっと気になっていたの。今度はそこをピンと張り

たいわけ」と説明するこの人もまた、相当、粋だろう。

『ヴェローナの二紳士』は、決して地の利がいいとは言えない彩の国さいたま芸術劇場に、多くの人に足を運んでもらうためには「きれいな若い男性の俳優をたくさん出そう」という、蛭川の優れたプロデュース感覚から生まれたオールメール・シリーズでの上演。

「出演俳優の多くは、一度は僕の演出を受けているから、そういう意味では安心して。コメディーだし、のびのびやってみてもらいたいね」

眼差しは、さらに未来へ——

そして年は明けるが、2月には「80歳記念イヤー」の総仕上げにふさわしい舞台が待つ。ちょうど50歳離れた気鋭の若手作・



マームとジブシー『cocoon』
(2013年/東京芸術劇場 シアターイースト) 撮影◎飯田浩一



2015年4月『リチャード二世』千秋楽。出演者の健闘を讃える蛭川。(右)演出補 井上尊高 Photo◎宮川舞子

演出家、^{ふじた たかひろ}藤田貴大が、蛭川の半生を舞台化する『^{にま わた}蛭の綿-Nina's Cotton-』を自ら演出するのだ。また、同作は同じ時期に彩の国さいたま芸術劇場内で、藤田が自身の劇団であるマームとジブシーを演出するバージョンも上演され、蛭川と藤田の競演まで実現する。

「一昨年、藤田さんが演出した『cocoon』を観て、まんまとハマった。終わって楽屋に行くと、僕に新作を書いてくださいとお願いしたんだ」という念願の企画だ。

「(自分の半生を舞台にしたいと聞いた時は)驚いたよ。でも羽根をむしられた雀でさ(笑)、焼くなり何なり、どうにでもしてくださいって感じ。この間、最初の10ページぐらいもらったら、面白いものになりそうだった」

自ら「藤田くんと俺も出演する?」と持ちかけた話もしてくれて、未来に向けた眼差しはますます強い。さらに最近、ある俳優から「あの作品と一緒にやりましょうよ」と電話をもらったこともうれしそうに話してくれた。

「俺、なんとなく80歳で死ぬつもりでいたんだけど、このままだと81歳まで生きないと間に合わないな。ちょっと予定とズレるよ(笑)」



^{にま わた}蛭の綿 -Nina's Cotton-

1935年生まれの蛭川幸雄と1985年生まれの藤田貴大、50歳離れた2人が出会い、共鳴し、「蛭川幸雄」の物語を紡ぐ。そして生まれる、2つの「蛭の綿」——。

【蛭川幸雄演出版】

【作】藤田貴大(マームとジブシー) 【演出】蛭川幸雄
【日程】2016年2月
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター(大ホール内)ほか

【藤田貴大演出版】

【作・演出】藤田貴大(マームとジブシー)
【日程】2016年2月
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホールほか

チケット情報など、公演詳細は次号にて発表!

蛭川幸雄80周年記念

蛭川幸雄80作品ポスター展

10月15日に80歳を迎える彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・蛭川幸雄。演出を手掛けた初期の1970年代から近年の作品まで、厳選した80作品のポスターを展示する。あわせて海外公演ポスターも紹介。

【会期】2015年9月8日(火)～11月8日(日)
休館日を除く9:00～22:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 ガレリア
※入場無料

【主催】公益財団法人埼玉芸術文化振興財団
【協力】株式会社ポスター・ハリス・カンパニー

シェイクスピア最初期の喜劇、きらめく若者たちの恋と友情

彩の国シェイクスピア・シリーズ第31弾

『ヴェローナの二紳士』

オールメールに挑むキャストInterview

いよいよ、来月に開幕が迫った『ヴェローナの二紳士』!

若者たちのアツい友情、甘く切なくおかしな恋愛喜劇が躍動する筆致で描かれ、

若きシェイクスピアの才気ほとばしる一作を蜷川幸雄が演出する。

そんな舞台に集結した魅力的なキャストに、戯曲の魅力、蜷川作品への意気込みを聞いた。

取材・文 ● 上野紀子 (演劇ライター)



溝端淳平

まさかの娘役への抜擢、 想像外の挑戦はチャンスです

まさか娘役を与えられるとは思っていなかったの、最初は戸惑いました。でも母親に「蜷川さんがやれと言ってくれたのには絶対に意味があるはずだから、信じてやりなさい!」と一喝されて、その通りやな、と(笑)。想像もしてなかったことに挑むのはチャンスでもあるんだ、と前向きにとらえたら楽しみになってきました。この物語、シェイクスピアが「若者の恋愛なんて喜劇みたいなものだ」と言っているような気がするんですね。盲目になって突っ走っているだけで本当の愛とは違うんだよ、みたいな。急に心変わりするのも、確かに恋愛は筋書き通りにはいかないよな、ある意味リアルだと思ったりしましたね。

ジュリアは途中で変装して男のフリをします。男のフリをする女性を演じる、という非常に複雑なハードルです。僕がどう苦しむかを蜷川さんは楽しみにしているんじゃないでしょうか(笑)。ありがたいハードルと思って、これをきっかけにまた一つ、自分の殻を破っていけたらいいなと思いますね。

みぞばた・じゅんぺい

1989年、和歌山県出身。2006年度 JUNON スーパーボーイ・コンテストにてグランプリを受賞。以降、TV、映画、CMなど幅広く活躍。舞台は河原雅彦演出「NECK」、野島伸司脚本「ウサニ」、永井愛作・演出「こんぼんは、父さん」など。蜷川作品には、海外でも上演された「ムサン」に続いて2度目となる。



三浦涼介

蜷川さんとの仕事で 知らなかった自分に気付いた

蜷川さんに出会う前は「こういう役じゃなきゃ嫌だ」なんてことを気にして仕事をしていたんですが、それは自分に自信がないからだ気づいたんですね。蜷川さんとの仕事で、見たことのない自分の表情や動きを知ることができた。シェイクスピアに関しても、自分にはハードルが高過ぎると思って避けていましたが、近々にやっておかないと後悔するんじゃないか……と思い始めて。そんな矢先に今回のお話をいただいたのでうれしかったです。

僕が娘役だと勘違いしている人もいましたけど(笑)、二紳士の一人のプロローティアス役です。プロローティアスはずごく芯が真っ直ぐで、大切な人を心から思っているけれど、基本は自分が一番で、生きたいように生きるヤツ……なんか自分にすごく似ているなと思いますね。僕、いつも一人で突っ走ってしまうところが多いので、今回は早い段階から皆さんと話し合っていきたい。自分の意見もしっかり提出しつつ、最終的には、皆の思いが一つの形になればいいなと思っています。

みうら・りょうすけ

1987年、東京都出身。小学生で受けたオーディションをきっかけに芸能界入り。舞台は「ハロルドとモード」(主演)、「bambino」シリーズ、「ショーシャンクの空に」に出演。アーティストとしてもイベントやライブなどで活動中。蜷川作品には「ボクの四谷怪談」「わたしを離さないで」以来、3度目の出演となる。

STORY

ヴェローナの青年ヴァレンタイン(高橋光臣)は、修学のためにやってきたミラノで、大公(横田栄司)の娘シルヴィア(月川悠貴)と恋に落ち、駆け落ちの約束をする。ところが、あとからやってきた幼馴染みのプロローティアス(三浦涼介)もまた、彼女に一目惚れ。さらにそこへ、故郷から恋人プロローティアスを追ってきたジュリア(溝端淳平)までもが現れる。道中、身の安全を守るためにセバスチャンと名乗って男装していたジュリアは、あろうことか恋人に従者として雇われてしまい……。

チケット発売中

彩の国シェイクスピア・シリーズ第31弾『ヴェローナの二紳士』

10.12(月・祝)~31(土) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出] 蜷川幸雄 [作] W.シェイクスピア [翻訳] 松岡和子

[出演] 溝端淳平、三浦涼介、高橋光臣、月川悠貴

正名僕蔵、横田栄司、大石継太、岡田 正、河内大和 ほか

チケット(税込)

一般 S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円

U-25*(B席対象)2,000円 *U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

メンバーズ S席8,100円 A席6,300円 B席4,500円

	10/12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月・祝	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
14:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
18:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

★印は映像収録のため場内にカメラを設置いたします。



高橋光臣

役者10年目にして ついに来たな!という感じ

役者を志した時から、蜷川さんのお名前を目にするたびに畏怖の念を抱いていたんですね。あのすばらしい演出家と仕事をすると、はたして俺は何ができるのか、と。そう恐れつつも、「いつか必ずその道を通りたい、通ってみせる!」と思っていました。役者10年目にしてついに来たな!という感じですよ。

ヴァレンタインという男は、鈍感で、天然かな……と、戯曲を読めば読むほどそう思えてしまっ。自分に任されたのもそれが理由かな?と(笑)。でも、彼は正義感を持ちながら、許せないものを許す寛容さもある。すごく人間味のある魅力的なキャラクターだと思います。稽古では、まずくどこまで力を抜いてやれるか>を一番のテーマとして取り組みたいと考えています。シェイクスピア劇だということにもあまりとらわれ過ぎずに、できるだけ壁を取っ払いたい。相手役である月川さんの胸を借りながらも、本番までにはしっかりと、月川さんから見ても魅力的なヴァレンタインでありたいと思っています。

たかはし・みつおみ

1982年、大阪府出身。2005年「ウォーターボーイズ2005夏スペシャル」にて俳優デビュー。以降、ドラマを中心に活躍し、2012年NHK朝の連続テレビ小説「梅ちゃん先生」で知名度をあげる。映画に小栗旬監督「シュアリー・サムデイ」、舞台は「真田十勇士」、「しゃばけ」など。蜷川作品は初参加。



月川悠貴

蜷川作品33本目は 新たな娘役・月川を見せたい

今回で蜷川作品への出演が33本目になりますが、毎回、稽古に入る前は恐くて仕方がないんですね。自分が準備したものを、ちゃんと演出家の前で表現できるのか、納得してもらえるのかと。蜷川さんは稽古中、何も言ってくださらないのすごく不安です。もう自分を信じるしかないと思って、苦悩と闘いながら稽古に臨んでいます。

僕が演じるシルヴィアは、完全なクール・ビューティー。難しいのは、ジュリアとプロローティアスには愛をささやくシーンがあるのに、シルヴィアとヴァレンタインにはないんですね。雰囲気だけで相手への恋心を伝えなきゃいけない。それに1、2、3……と気持ち順を追ってなくて、突然3になって「お互いに好き」になって、もう次には「駆け落ち」で10くらいにボルテージが上がっている(笑)。なかなかの難関ですが、今年は芸能生活30周年でもあるので、今までにない娘役・月川悠貴を見せられるよう、精いっぱい頑張ります。

つきかわ・ゆうき

1985年に初舞台、1991年から蜷川作品に参加し、彩の国シェイクスピア・シリーズの「オールメール・シリーズ」では「お気に召すまま」「間違いの喜劇」「ロイヤルとクレシダ」など6作品に娘役として出演。昨年はNINAGAWA X SHAKESPEARE LEGEND I「ロミオとジュリエット」でジュリエット役を演じた。

パリの中心地、セーヌ川をのぞむシャトレ広場に建つパリ市立劇場。日本では、ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団や山海塾の公演が行われることで有名なため、コンテンポラリー・ダンスの殿堂というイメージが強いが、1968年の開場以来、演劇・ダンス・クラシック音楽・ワールドミュージックの4ジャンルを均等に取上げてきた、フランスを代表する公共劇場だ。演劇については、フランス語作品が中心だったが、2008年にエマニュエル・ドゥマルシー＝モタが芸術監督に就任以降、海外の作品も積極的に上演するようになっており、昨年さいたまゴールド・シアターの「鴉よ、おれたちは弾丸をこめる」が招聘されたのは、記憶に新しいところ。現在は、上演される全演劇作品の約半数が、フランス語圏以外の作品だという。「たとえば、太陽劇団主宰のアリアヌ・ムヌーシュキンは、1965年に中国に行こ

うとして果たせず、日本に渡航先を変えたことで、能、歌舞伎、文楽に出会い影響を受けて、自身の作風をガラッと変えることになりました。そして、私もその一人ですが、彼女の作品を観たアーティストや観客が、また別の影響を受けていったのです。芸術は、こうして有機的に影響し合うものはずですが、近年、どうも各自がセクト化しがちで、広がり欠ける傾向があります。社会状況を見ても、たとえば2014年の欧州議会選挙で極右政党が最多得票を獲得した結果は、現実を如実に反映しています。私たちが情報と表現の自由を懸命に訴えている傍らで、この国は着々と内向きに傾いている、ということが露呈してしまっただからです。でも、だからこそ私たちは、この劇場のプログラミングの枠を越えて、状況を変えていかなければならないと思っています」

現代の“犀”を探す冒険

その果敢な姿勢は、周囲の人々が次々と犀に変貌していく中で、必死に自己を保とうとする『犀』の主人公、ベランジェに重

なるところも。

「ベランジェは、自分に対してつねに不安と焦燥感があり、脆いタイプの人間です。でもその彼が、ほかの誰よりも一番最後まで持ち堪える。弱さの中に、抵抗してゆく強さを見出ししていく姿に感銘を覚えます。イヨネスコは、父がルーマニア人、母がフランス人で、父を通してファシズムを体験していますが、私は、父がフランス人、母がポルトガル人で、子どものころに起きたポルトガル革命時(74年)に、母の友人が拷問にあい、手にたばこの火の痕がついているのを見た記憶があります。私にとってもファシズムは、抽象的な概念ではなく、はっきりと顔を持った存在なのです。でもフランスでは、『犀』は60年にジャン＝ルイ・パローが初演して以降、時代遅れの印象が強くなり、公共劇場では一度も上演されていませんでした。私が2004年に自分の劇団の仲間たちとこの作品を上演することにしたのは、人々が、すぐに同調し、画一的な言い回しを好んで、それをファッションとして流行させる傾向を漠然と感じたからで、“2004年の今、何が犀になり

得るかをみんなで考えよう”という問いから、冒険を始めたのです」

“冒険”に時代はヴィヴィッドに反応。2006年以降は、北米、南米、ヨーロッパ、ロシアなど、世界各地を巡演し、いずれも強い反響を呼んでいる。「その国の歴史や文化、社会状況によって、ほんとうに反応が異なるんですよ。ギリシャやスペインでは、経済破綻に伴う未来への不安と結びつけられていたし、チリでは、専制時代の記憶が呼び起こされていた。ニューヨークやロンドンでは、観客がよく笑っていましたが、これはイヨネスコが持つナンセンスや言葉遊びの感覚に、アングロサクソン文化と共通するものがあるから、という指摘を受けました。モスクワでは、これとほぼ真逆で、非常に悲観的な結末と受け取られました。『最後のひとりになっても闘う』という状況は、英米では普通だけれど、ロシアでは現実味を持ちにくいからでしょう」

「2011年に作品をもう一度創り直したのですが、パリでのリニューアル版初演の直前に、東日本大震災が起きました。津波に

よるカタストロフィーの映像を見て、イヨネスコが言及していた“すべてを破壊してしまう力のおそろしさ”について、あらためて俳優たちと話し合ったものです。『犀』という作品には、イデオロギーだけでなく、さまざまな要素が見て取れますが、人間がコントロールできていると思っているものが、実はできていない、ということも、その一つ。初めて訪れる日本ではどんな反応が得られるか、この目で見届けるのを楽しみにしています」

現在の日本について描いている！と思えること請け合いの日本公演は、3回のみ。貴重な機会を、お見逃しなきように。

チケット発売中

パリ市立劇場『犀』

フランス語上演 / 日本語字幕付

11.21(土) 開演 19:00

22(日)・23(月・祝) 開演 15:00

彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[作]ウジェーヌ・イヨネスコ

[演出]エマニュエル・ドゥマルシー＝モタ

[出演]パリ市立劇場カンパニー

チケット(税込)

一般 前売 S席6,000円 A席4,000円

当日 S席6,500円 A席4,500円

U-25* 前売 S席4,000円 A席2,000円

当日 S席4,500円 A席2,500円

メンバーズ 前売 S席5,400円

当日 S席5,900円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。

入場時に身分証明書をご提示ください。

パリ市立劇場

犀

サイ

RHINOCÉROS
Théâtre de la Ville - Paris

STORY

アル中気味でうだつが上がらないベランジェは、友人のジャンとともに一頭の犀が街を駆け抜けるのを目撃した。騒然とする街の人々をよそにベランジェはどきどき吹く風。翌日、ベランジェのオフィスでは犀の話題でもちきりだった。そこに欠勤が続くブフ氏の妻が犀に追われて駆け込んで来る。しかし、彼女を追って来た犀こそがブフ氏だと気づくと、ブフ夫人は制止を振り切って犀に飛び乗ってしまう。犀の目撃情報が増える中、仲直りをするためにジャンの家へ向かうベランジェ。だが、ジャンもまた犀に変身し、隣人たちも犀に変身してしまう。いよいよ街は犀に占拠され、ベランジェと同僚のデイジーは二人で生きて行こうと決意するが――。

演出・パリ市立劇場芸術監督

エマニュエル・ドゥマルシー＝モタ

Interview

弱く脆い主人公が、抵抗する強さを見出す姿に感銘を覚える

不条理演劇を代表する作家イヨネスコの傑作が、本国フランスから上陸。世界各地を巡演し、さまざまな反響を呼んでいる話題作の来日まで間もなくだ。パリ市立劇場の芸術監督であり、演出を手掛けたエマニュエル・ドゥマルシー＝モタに、時代・国境を超えて届く『犀』の魅力を聞く。

取材・文◎伊達なつめ(演劇ジャーナリスト) Photo◎Jean-Louis FERNANDEZ



エマニュエル・ドゥマルシー＝モタ

Emmanuel Demarcy-Mota

1970年フランス生まれ。母は女優、父は劇作家・演出家。劇団活動を経て、2002年からランス国立演劇センター芸術監督。様々なアーティストとの共同制作を始め、ヨーロッパ各国の劇団と長期に渡り提携し、創作と普及をサポート。その他、俳優養成施設の設定など多くの功績を残した。2008年、パリ市立劇場の芸術監督に就任。2011年よりパリの国際芸術祭「フェスティバル・ドートヌ」のディレクターも兼任している。

80年代、フランスで生まれたヌーヴェル・ダンスを牽引した3人が、振り付け踊るダンス作品が来日する。

バルバラやゲンスブール、エディット・ピアフなど

往年の名歌手による16曲のフレンチ・シャンソンが登場する作品だ。

1968年の五月革命に端を発するフランスの「革命的」な時代に青春期を生きた3人。

彼らが親しんだこれらシャンソンの数々には、当時の社会が色濃く反映されているものも多い。

今回はそれぞれに、『En Piste—アン・ピスト』に登場するシャンソンに込めた思いを聞いた。

ドミニク・ボワヴァン

Dominique Boivin

1952年生まれ。1978年に処女作『Quelle fut ta soif?』でバニョレ国際振付コンクールのユーモア賞を獲得。1981年カンパニー Beau Geste を設立。ダニエル・ラリュエのAstrakan、フィリップ・ドゥクフレによるDCAにも参加。来日作品『ワタシなりのダンスの歴史』(98年・03年)をはじめ数々の作品を発表、精力的な活動を続けている。

ボワヴァン／ウバン／ラリュエ 『En Piste—アン・ピスト』 Interview

シャンソンで踊り、紡がれる

パスカール・ウバン

Pascale Houbin

1954年生まれ。1987年にカンパニー Non de Nom を設立。ダニエル・ラリュエやフィリップ・ドゥクフレのもとでダンサーを務める。『Nota Bene』(87年)、『Chants』(89年)で雙頭の俳優に手話を用いて振付。言葉と動きとの関係性に興味を持つ。2002年より『Aujourd'hui à deux mains (今日の手仕事)』と題し、様々な職人の道具を用いない動きを映像におさめる実験研究を展開している。

ダニエル・ラリュエ

Daniel Larrieu

1957年生まれ。1982年にバニョレ国際振付コンクール賞受賞。1994年～2002年ツール国立振付センター芸術監督。1989年『風の薔薇』、1996年『デルタ』などで来日。プールが舞台の『Waterproof—ウォーターブルー』などこれまでの作品では、劇場以外の“場”を舞台に選ぶことも多い。社会に対してユーモアとアイロニーあふれるまなざしを向けつつ、独自の試みに挑戦し続けている。

Photo©Frank Boulanger



「革命的」だった私たちの青春時代を思い出させるレオ・フェレのシャンソン

ドミニク・ボワヴァン Photo©Olivier Bonnet

今回僕が選んだいくつかの曲は、ダニエルやパスカールと一緒に、あるいはソロで創作したものです。私たちはこれまで、特別なイベントのためによく振り付けていましたから。

『En Piste—アン・ピスト』では、そんな自分たちが振り付けたことのあるお気に入りのシャンソンを持ち寄って綿密にクリエイションを重ねました。この作品中でもっとも大規模なシャンソンである、レオ・フェレの《もう何もない》は、実は1973年にリリースされた政治的 Manifesto のようなもので、1968年の五月革命、(革命的)だった私たちの青春時代を思い起こさせるシャンソンです。

『En Piste—アン・ピスト』は、シャンソンを通して、われわれ人間がこれまで歩んできた道にウインクするような感覚の作品だと思っています。

また、バロック・ダンスのスペシャリストで、今回、レオ・フェレ《彼はスケートが上手い》の振付協力で参加してくれたベアトリス・マサンは私の友人なのですが、これまで彼女と交流する中で、ダンスがコンテンポラリーであるか、クラシックであるか、バロックであるかということを超えたところにダンスは存在する、という考えを彼女と共有してきました。身体の動きへの関心はいつまでも止むことがありませんが、ベアトリスとのコラボレーションでは、いわゆるバロック・ダンスを知る……ということではなく、むしろ、バロック的な空間に繋がる《精神の状態》を教えてもらったのです。



わたしたちの年齢と身体と経験が踊りで伝えられること

ダニエル・ラリュエ Photo©Benjamin Favrat

1984年、ボードレールの詩から私が振り付けた『皮と骨』で共演して以来の親友たちに「もう一度一緒に踊ろう」と誘って生まれたのが、この『En Piste—アン・ピスト』です。3人でたくさんのシャンソンを聴いて詩情や思いが自分たちに共通し強く訴えてくる曲を選びました。わたしたち3人は今や60才前後という年齢ですが、その身体と経験がみなさんに伝えたい思いをシャンソンとダンスに込めました。

私がツール国立振付センターで芸術監督をしていた時は、パスカール・ウバンとお互いに振付作品をつくりました(ウバンが《愛する時》で振付作品を創作。《時の流れに》は共同振付。どちらもレオ・フェレ)。また、右派対極右政党という状況になった2002年の大統領選、ドミニク・ボワヴァンと私はセルジュ・レジアニの《狼たちはパリに侵入した》(ファシズムの台頭をイメージさせる歌)で踊らなくては、と立ち上がりました。こんなふうには私たちが3人は、幾度か再会し、少しずつシャンソンで踊る作品のレパートリーを増やしていったんです。ちょっとした歴史でしょう？

レオ・フェレの《もう何もない》に挑戦しようと提案したのはドミニクでした。おかげで、このような叙事詩的、交響詩的とも言えるような曲で踊ることができました。現在の商業的な流通ではおそらくあり得ない、20分近くにも及ぶシャンソンだからこそ彼は提案したのですが、歌詞からはレオ・フェレの政治へのアンガージュマン(社会参加)、《消費社会に巻き込まれないで生きたい》という願望を強く感じます。私たちは自身の経験に培われたポエジーを守らなければならない。そのことを語るシャンソンなのです。



シャンソンで踊る、手話、そして職人の手振りへの関心

パスカール・ウバン Photo©Florence Goupil

私が今回ソロで踊る曲は、フィリップ・ドゥクフレと映像作品にもしたブルヴィルの《失われた小さなダンスホール》、ひざまづいて踊るように振り付けたレオ・フェレの《愛する時》、そして船乗りのような心を持つ私の恋人のために振り付けた、ジャック・ブレルの《遙かなるマルキーズ諸島》です。

私はこれまでの作品で手話を使った振付もしており、言葉と身体の動きの関係に大きな関心がありますが、常に関心の中心にあるのは《言葉の意味》と《人間の動作》の関係で生まれるエモーションなんです。歌詞やせりふなどのテキストを、ダンスで、空間に書を描くように表現することが好きなのですが、これは少し個人的、私的に解釈したような表現となってあらわれる気がします。作品をつくる時、振付を組み立てていく時、ダンスする時……。舞台上での身振り、そして特に、ダンスが歌の言葉とつながっている時は、この上ない自由を感じますね。シャンソンのメロディーと、詩の意味、そのふたつがダンスに包まれ、これらが重なり合って、まっすぐで強烈なエモーションを生み出すのです。そのほか、職人の身振り(手振り)についての作品にも取り組んでいますが、彼らの仕事をする時の仕草に引きつけられますね。職人の肉体が経験していることが見えますから。日々繰り返され、記憶され、自立性と責任を持ってその仕事はなされていて、それぞれの鑑定書のような。そしてほかの人に継承されていく……。その身振りは、私には踊っているように見えるのです。

作品を彩る16曲のシャンソン

LISTE DES CHANSONS - EN PISTE

1. Faut Tout Ça (フトウ サ) : レ・フレール・ジャック
2. Le p'tit bal perdu / 失われた小さなダンスホール : ブールヴィル
3. Les loups / 狼たちはパリに侵入した : セルジュ・レジアニ
4. Mon enfance / 私の幼いころ : バルバラ
5. On s'aimera / 愛する時 : レオ・フェレ
6. Ces petits riens / ささいなこと : セルジュ・ゲンスブール
7. Mirza (ミルザ) : ニノ・フェレール
8. Les paradis perdus (失楽園) : クリストフ
9. L'homme à la moto / オートバイの男 : エディット・ピアフ
10. Avec le temps / 時の流れに : レオ・フェレ
11. Bobo Léon (ボボ・レオン) : ボビ・ラポワント
12. Les Marquises / 遙かなるマルキーズ諸島 : ジャック・ブレル
13. Requiem pour un con / 馬鹿者のためのレクイエム : セルジュ・ゲンスブール
14. Il patinait merveilleusement / 彼はスケートが上手い : レオ・フェレ
15. Il n'y a plus rien / もう何もない : レオ・フェレ
16. Non non rien n'a changé (ノンノン…) : レ・ボビー

チケット発売中

ボワヴァン／ウバン／ラリュエ
『En Piste—アン・ピスト』

11.6(金)開演19:00 7(土)開演15:00

彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

[構成・振付・出演]ドミニク・ボワヴァン、パスカール・ウバン、ダニエル・ラリュエ

チケット(税込) 全席指定

一般 4,000円/U-25* 2,000円/メンバーズ 3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※演出の都合により、開演時間に遅れますと入場をお待ちいただく場合がございます。予めご了承ください。

混沌の世界に残る希望 インバル・ピント & アヴシャロム・ポラック 『DUST—ダスト』

Interview

イスラエルを代表する振付家・演出家インバル・ピントとアヴシャロム・ポラック。彼らが手掛け2013年に初演した舞台が、来年1月に日本初上陸する。さまざまなイメージを重ねた作品に込められた思いを、二人に語ってもらった。

取材・文 ● 乗越たかお Takao NORIKOSHI (作家・ヤサぐれ舞踊評論家) Photo ● 宮川舞子

— 私はこの作品を2013年の12月にイスラエルで拝見し、さまざまな新しい挑戦を感じました。まず全体をモノトーンの色が覆っていますね。あなたたちの作品はカラフルな舞台が多い印象ですが。

インバル それは今回、創作のある時期まで、舞台全体を〈システム化された秩序のある場所〉と設定していたからかもしれません。ただしそれは〈やがてやってくるかもしれない悲劇や混乱をはらんだもの〉ですが、それに、モノトーンであることが、かえってさまざまな色を感じさせることもあるでしょう？

— 舞台セットは教室のようで、衣裳は西洋のパジャマ風ですね。

アヴシャロム 寄宿舎や教室を連想しやすいデザインですが、一つの宇宙かもしれないし、巨大な厄災から人々が逃げ込んだシェルターかもしれない。あるいはここから厄災が始まるのかもしれないし、ゴミや埃や砂が積もった厄災後の廃墟かもしれないですね(笑)。

インバル 大きな意味で、社会の縮図としても見ることもできます。

— 実は今回、強く〈死のイメージ〉を感



インバル・ピント(左) & アヴシャロム・ポラック(右)
Inbal Pinto & Avshalom Pollak

インバル・ピントはグラフィック・デザインを学んだ後、バットシェバ舞踊団に参加し、ダンサー・振付家として活躍。俳優として活躍していたアヴシャロム・ポラックに出会い、1992年にインバル・ピント&アヴシャロム・ポラック ダンス・カンパニーを設立。ベッシー賞を受賞した『Wrapped』(1998年)をはじめ、『オイスター』(1999年)、『プーベーズ』(2002年)など革新的で想像力豊かな傑作を発表。2007年彩の国さいたま芸術劇場で国際共同製作『Hydra ヒュドラ』を世界初演。カンパニー活動以外にもオペラや演劇の振付・演出も行っている。今年8月に東京芸術劇場でミュージカル『100万回生きたねこ』の再演を手掛けるなど、日本でも積極的に作品を発表している。



Photo © Daniel Tchetchik

発売日 一般 10.10(土) メンバーズ 10.3(土)

インバル・ピント&アヴシャロム・ポラック『DUST—ダスト』

2016年1.28(木)・29(金)開演19:00 30(土)・31(日)開演15:00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[振付・衣裳・美術・音楽デザイン]インバル・ピント&アヴシャロム・ポラック
[出演]インバル・ピント&アヴシャロム・ポラック ダンス・カンパニー
ジョゼフ・エイトケン、ツヴィ・フィッシュジン、ノガ・ハルメル
モラン・ミュラー、森山未来、コルデア・ランゲ、アミト・マルシノ

チケット(税込) 一般 S席6,500円 A席4,500円
U-25* S席3,500円 A席2,000円
メンバーズ S席5,850円 A席4,050円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※演出の都合により、開演時間に遅れますとお客様のご案内ができない場合がございます。予めご了承ください。

じたのですが、それは作品の後ろに厄災の存在があるからでしょうか。厄災から逃れた子ども、あるいは子どもを守ろうとする大人、というような。

インバル そうですね。このモノトーンの世界に、青い服の異質なキャラクターが登場してきます。彼は大人でしっかりしようとするけど、まるで背骨がないような脆い存在です。〈社会や子どもを統制するべき者が、一番不安定な人々である〉というメタファーで、矛盾をはらんだユーモラスな存在にもなっています。コントラストが重要なんです。ほかに〈泣く少女〉も出てきますが、彼女は弱く見えて、実は世界を巻き込みかねないくらい強い存在。さまざまな相反するキャラクターが、作品をより大きな世界へと展開していくわけです。

— 厄災やカタストロフィーのイメージは、初期からあったのですか？

アヴシャロム 惨事を招きかねない脅威が常に存在している感覚、もしくは〈惨事後〉というイメージはありましたね。

インバル 運命とは何か。どうしたら変えられるのか。それぞれの社会を形作っている物はなにか……といったところが出発点ですね。

辛い状況でも、希望や再生に向かう力を再確認したい

— 今回はアニメーション作家ともコラボレーションしていますね。これも新しい挑戦ですか？

アヴシャロム はい。最近は多様なアーティストとコラボレーションしていて、今回のアニメーション作家とは二度目です。動画のキャラクターで世界観を表す工夫を

しています。

インバル あえて手描きのコマ撮りのようなローテクでアニメーションを作ってもらい、その動きとダンサーの身体の動きを融合させるのが挑戦でしたね。

— 今回はクラシック曲をたっぷり使っていますね。

インバル ベートーベンの交響曲第九番と第五番ですね。第五はもっともロマンティックであると同時に、ちょっと大きめで馬鹿馬鹿しくユーモラスなんです(笑)。張り合うのではなく、音楽が作品の本来的なダイナミズムに貢献するよう、正面から取り組みました。



— ここまでの話で、ひょっとすると本作を暗い作品だと思う人がいるかもしれませんが、そんなことはないですね。閉塞空間の中でも、子どもたちは遊ぶ。もっといえば、閉塞した空間の中でこそ、あなたたちのユーモアのセンスがもっとも輝きを放っていたときえ感じました。

アヴシャロム もっとも暗く辛い状況であっても、ささやかな光さえあれば、希望を生み出すことはできるからね。

インバル 私は楽観的すぎると言われても、最後には未来への希望や、再生に向かってチャレンジし続ける力を再確認したい。たとえ小さな紙切れ、小さな棒切れで

あっても、つなげ方によっては家だって作ることができるでしょう。未来に立ち向かうさまざまな断片を、希望を持ってつないでいくことが大切なんです。

— 一つだけ気になったのは、作中に出てくる洪水のイメージです。日本の観客の中には東日本大震災の津波を思い出す人もいるでしょう。たしか小さな折り鶴も登場しますよね？

アヴシャロム よく見えていますね(笑)。はい、その可能性は認識しています。もちろん私たちが意図したわけではありません。クリエイションには日本人ダンサーも一緒にしたし(森山未来、皆川まゆむ)、私たちの意識下のイメージが反映されたのかもしれない。でも観客が自分の人生経験に基づいて作品を見るのは、ある意味当然のことですから。

— 最後に日本のファンに一言お願いします。

インバル 人間は破壊と建設のどちらでも選ぶことができるし、その選択は私たち一人ひとりの手に委ねられています。私は楽観主義者だけど、同時に注意深くあるべきだと思っています。人がいつも良い選択をするとは限らないので、常に考え続けたいいけません。

アヴシャロム 僕は悲観主義者だけど(笑)、たとえ小さくても新しいものへの理解や発見を受け入れる余裕は、常に残しておきたい。そして魂の糧となる作品を提供していきたい。そういう機会は今の社会でどんどん少なくなっているの、ぜひ舞台を通して経験して欲しい。そして私たちの社会にとって大切な多くのことに気づき、つなげていければと思っています。

ピリスと若手が共に学び、交流する パルティトゥーラ・プロジェクト

長年第一線でソロ・ピアニストとして活躍してきたポルトガル人のピアニスト、マリア・ジョアン・ピリスが、その活動の主体を室内楽や教育活動にシフトするようになったのはかれこれ15年ほど前のことだろうか。その最初の大きなプロジェクトが、1999年に母国の農村ベルガイシュで始めた、地元の恵まれない子どもたちのための教育プロジェクトであった。そこには自然と彼女に教えるを請う若手音楽家も集うようになり、共同生活をしながら、先生と生徒といった枠組みを超えた音楽家同士の理想的な交流が生まれるようになった。残念ながらこのプロジェクトはさまざまな理由から頓挫してしましたが、その精神はピリスが最近立ち上げた「パルティトゥーラ・プロジェクト Partitura Project」に引き継がれていることは間違いない。

「パルティトゥーラ・プロジェクト」は2013年に始まった、プロとしての岐路に立つピアニストを支援する実験的なプロジェクトである。「パルティトゥーラ」とは、「楽譜」を意味する言葉。現在、ベルギーのワテルローにあるエリザベト王妃音楽院シャベルという、プロの音楽家の育成機関（狭義の音楽大学ではない）のレジデントである。第一期生として選ばれたのは19歳から31歳までの7人のピアニストたちで、そのうちの一人が、11月に彩の国さいたま芸術劇場でピリスと共演するフランス人のナタナエル・グーアンであり、また、すみだトリフォニーホール公演でのベートーヴェンのピアノ協奏曲シリーズでソリストを務めるジュリアン・リベールおよび小林海都らもそのメンバーである。

ピリスはプロジェクトについて次のように語る。「コンセプトはとてもシンプルで、シェアすることなのです。音楽とは、シェアすることでしか存在できません。今のような困難な時代においては、すべての人がシェアできるプロジェクトが必要です。そもそもは世代の違う音楽家たちが集い、ふだんコンサート・ホールに足を運ぶことのない人々と音楽を



マリア・ジョアン・ピリス ピアノ
Maria João Pires

芸術への真摯な姿勢、語りかけるような表現力、そして生命力にあふれた演奏で、聴衆の心をつかんで放さない、現代を代表するピアニスト。生活、地域社会、教育における芸術の活用の新たな方法の確立を命題に様々な活動を行っている。独奏曲、室内楽、オーケストラとの作品など幅広い作品を録音しており、2014年夏には70歳の誕生日を記念するボックス・セットなどがリリースされた。

ナタナエル・グーアン ピアノ
Nathanaël Guouin

1988年生まれ。パリ国立高等音楽院でM.ペロフ、D.バスカル、E.ル・サージュのクラスに満場一致で迎え入れられ修士号を取得、上級コースへ進む。M.J.ピリスやP.-L.エマル等の偉大な音楽家たちから授かる助言を糧にさらなる高みを目指している。オーストリアのヨハネス・ブラームス国際コンクール第1位をはじめ受賞歴多数。2011年、バンク・ポピュレール財団賞を受賞。

マリア・ジョアン・ピリスのパルティトゥーラ・プロジェクト

ピリス + 若手音楽家 + 聴衆が「シェア」する音楽

世界的なピアニスト、マリア・ジョアン・ピリスが現在力を注いで展開する音楽活動、それが「パルティトゥーラ・プロジェクト」。

11月には「パルティトゥーラ・プロジェクト」による日本初リサイタルとして、若手演奏家ナタナエル・グーアンとともにステージに上がる。ピリスの信念がこめられた「パルティトゥーラ・プロジェクト」とは――

文◎後藤菜穂子（音楽ライター）

シェアできないかと思ったのがきっかけです。

世間では、音楽家を知名度によって評価するスター制度が根強いですが、私たちはそれに代わる制度を作るべく、このプロジェクトを立ち上げました」

グループ・ワークショップや社会活動から得るもの

では実際にはどんな教育の場なのだろうか。ピリスはいわゆる教師と生徒の1対1によるレッスン形式を好まず、グループ・ワークショップの形で行う。「なぜなら教える側も同時に学んでいるからです。パルティトゥーラではすべて全員で行います。全員が演奏し、全員が発言し、意見を述べます。ワークショップでは私一人が教えるのではなく、メンバーも教える側に回り、一人の先生が絶対的な力を持たないようにします。そうすることで交流が生まれ、真実は決して一つではないことがわかってくるのです」

ディスカッションは演奏の技術的なことにとどまらず、哲学や心理学などにも及ぶ。またメンバーたちは、瞑想を行い、社会活動にも参加する。「パルティトゥーラは舞台での演奏だけにとどまらず、社会的なプロジェクトにも関わり、刑務所や病院、問題を抱える子どもたちの施設にも活動を広げ、さらにはふだんコンサートに行かない人たちにも音楽を届けたいのです」

たとえばリベールは、恵まれない子どもたちとの音楽プロジェクトに関わっており、それは自分の音楽家としての認識を大きく変える体験となったと語っている。

「共演」とは舞台上で音楽を「シェア」すること

ピリスはかなり前から一人では舞台に立ちたくないと述べてきたが、それもやはり舞台上で音楽を「シェア」したいからなのだろう（もちろん一人でも、聴衆とは音楽をシェアしているわけだが）。そういえば数年前にロンドンのウィグモア・ホールでチェロのアントニオ・メネセスとデュオ・リサイタルを行った時、前半にそれぞれがソロの曲を1曲ずつ弾き、後半にチェロ・ソナタで共演したのだが、前半はお互いの演奏を舞台上で聴き合う形式を取っていたのが印象的だった。これもまたピリス流の「シェアリング」の形だったのだろう。

ここ数年、ピリスは主にオーケストラとの共演（モーツァルト、ベートーヴェン、ショパンの協奏曲）か、メネセスやヴァイオリンのオーギュスタン・デュメイら気のおけない仲間との室内楽を活動の中心としており、その延長として、パルティトゥーラの若き音楽家との舞台での共演がある。すでにヨーロッパ各地で彼らと20以上のコンサートを行っており、秋の日本でのプロジェクトも含めて、今後も多くのジョイント公演が予定されているという。

音楽には年齢も世代も関係ない、と言い切るピリス。70歳を過ぎても強い信念と行動力を持って高い理想を追い求める姿に、若き音楽家たちが啓発されないはずがない。

チケット発売中

マリア・ジョアン・ピリス パルティトゥーラ・プロジェクト in 彩の国若き俊英グーアンを迎えて

11.15(日) 開演15:00 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演] マリア・ジョアン・ピリス(ピアノ) ナタナエル・グーアン(ピアノ)

[曲目] シューベルト: 4手のためのアレグロ D947「人生の嵐」

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 作品110 (ピリス演奏)

ベートーヴェン: ピアノ・ソナタ第21番 八長調 作品53「ヴァルトシュタイン」(グーアン演奏)

シューベルト: 幻想曲 ヘ短調 D940

※当初発表した曲目から一部変更いたしました。なにとぞご了承ください。

※終演後、出演者によるアフタートークを予定しています。

チケット(税込) 一般 正面席6,500円 メンバーズ 正面席6,000円

※バルコニー席・U-25は予定枚数終了しました。

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

「次代へ伝えたい名曲」第5回

Interview

今井信子

私のために書かれた曲を伝える
——それが私の使命

日本を代表する音楽家たちが「次代へ受け渡したい名曲」を選曲してお贈りするシリーズ。第5回は、世界的なヴィオラ奏者・今井信子が、彩の国さいたま芸術劇場に初登場する。日本人作曲家の名前が並ぶプログラムは一見とつきづらいかもしいが、実は、彼女と作曲家との素敵なエピソード満載の選曲だ。

取材・文◎柴田克彦 (音楽評論家)

Photo◎横田敦史
取材協力◎上野学園大学若い人は、一夜の演奏会で
世界が一変することがある

日本のヴィオラ界を長年リードしてきた今井信子は、これまでの活動をこう振り返る。「終わったことに未練や懐かしさなどないですが、自分のために書かれた30曲ほどの作品に関しては、曲を通じて思い出がたくさん蘇ってきます。また、いつも大事にしているのは、自分らしさが出る作品。それは技巧でなく“色”で勝負する音楽です。そうした曲に惹かれ、紹介したいと思って活動してきました」

今回の「次代へ伝えたい名曲」にあたってイメージする「次代」は、「自分の弟子たちの世代」だという。「年齢で言えばティーンエイジャーから20代。思春期から様々な物事を考え始めるころの人たちが一番大事ですね。一夜にして世界が変わることも、1週間で音楽が変わることもありますから」

今井信子 ヴィオラ
Nobuko Imai

現代屈指のヴィオラ奏者として高い信頼と圧倒的な人気を誇る。ベルリン・フィル、ロンドン響ほか世界主要オケと、室内楽ではクレーメル、五嶋みどり、マイスキースらと共演。日本でも〈ヴィオラスペース〉の企画、演奏に携わるなどヴィオラ界をリードする存在として、ソリスト、室内楽奏者、教育者と各方面で多彩な活動を行っている。

キム・ソヌク ピアノ
Sunwook Kim

1988年生まれ。2006年リーズ国際ピアノ・コンクールにて史上最年少、かつアジア人として初めて優勝。これまでにロンドン響、コンセルトヘボウ管、フランス国立放送フィルなどの名門オーケストラと共演。ドイツ・グラモフォンからチョン指揮ソウル・フィルとのベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」がリリースされている。

中 恵菜* ヴィオラ
Meguna Naka

宮崎国際音楽祭、JT期待の音大生シリーズ、米国インディアナ大学現代日本音楽祭等に出演。桐朋学園大学4年在学中。

山本 成* ヴィオラ
Naru Yamamoto

京都市立京都堀川音楽高校ヴァイオリン科卒。2013年エネスコ国際音楽祭にハーモニア管弦楽団として参加。桐朋学園大学2年在学中。

鈴木慧悟* ヴィオラ
Keigo Suzuki

ザルツブルグ=モーツァルト国際室内楽コンクール2014第1位グランプリ受賞。北九州国際音楽祭他に出演。桐朋学園大学2年在学中。

*野平作品共演者

自身もそのころ「一夜にして変わった」。桐朋学園の弦楽合奏団でアメリカ演奏旅行に行き、立ち寄ったタングルウッズの音楽祭で、ボストン響の首席奏者ジョゼフ・ド・バスクワレがヴィオラ・ソロを弾くR.シュトラウスの《ドン・キホーテ》を聴いて、ヴィオラに専心することを決めたのだ。「音を聴いた瞬間に『あ、これだ!』と思いました。あの音の感動が今も続いています」

作曲家からプレゼントされた
大切な作品の数々

今回のプログラムにも、前記の言が反映されている。「私の大好きな作品ばかりです。選ぶのが難しかったのですが、やはり自分のために書かれた曲を紹介するのが、私にしかできないことだと思い、ブラームス以外は全てそうした作品にしました。そしてブラームスのヴィオラ・ソナタ第1番は、ヴィオラを代表する名曲であると同時に、武満徹さんが愛した作品。特に私のための作品を作曲するときには、このソナタの第2楽章を聴いていたと言われていました。それが選んだ理由です」

1曲目の野平一郎による〈「トランスフォルマシオンI」バッハのシャコンヌ〜4台のヴィオラのために〜〉は、「人生のほとんど全て」と話す大事な企画「ヴィオラスペース」の委嘱作。今回は「次代に伝えるべく」3名の生徒が共演する。「世界中で演奏されていますし、本当によく出来ているので、どうしても入れたい

としました。構成は原曲通りですが、メロディが頻繁に移動し、スル・ポンティチェッロやピッツィカート*などの奏法も用いられています」

武満徹の作品は、彼女のために書かれた3曲中2曲を披露。両曲は交互に「ヴィオラスペース」のコンクールの課題曲にもなっている。「〈ア・ストリング・アラウンド・オータム〉は、大編成オーケストラとのカラフルな曲を、細川俊夫さんがピアノ用に編曲してくれました。《鳥が道に降りてきた》は、委嘱作ではなく武満さんからのプレゼント。《ア・ストリング〜》を、ピアノと演奏できるようにしてほしいとの手紙を書いたのですが、返事はありませんでした。するとあるパーティーで、武満さんが丸めた紙を持ってきて『ヴィオラとピアノのための曲を書き始めたんだよ』と。それがこの曲。こんなことは普通ないですよ。なのでいつも弾いていないと申し訳ない。ただコンクールの課題曲にしたことで世界中の奏者が弾くようになりました」

バッハの《人よ、汝の罪の大きさを嘆け》とヘンデルの《私を泣かせてください》は、細川俊夫の編曲。後者は今回唯一の無伴奏曲でもある。「共にとても美しい作品。原曲に忠実な編曲ですが、細川さんらしい豊かな響きをもっています。これらも『ヴィオラで弾い



チケット発売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画

「次代へ伝えたい名曲」第5回
今井信子 ヴィオラ・リサイタル

11.28(土) 開演15:00

彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

[出演] 今井信子(ヴィオラ) キム・ソヌク(ピアノ) ほか

[曲目]

野平一郎: 〈トランスフォルマシオンI〉

バッハのシャコンヌ〜4台のヴィオラのために〜

武満 徹(細川俊夫編曲): ア・ストリング・アラウンド・オータム

武満 徹: 鳥が道に降りてきた

バッハ(細川俊夫編曲): 人よ、汝の罪の大きさを嘆け

ヘンデル(細川俊夫編曲): 私を泣かせてください

ブラームス: ヴィオラ・ソナタ第1番 へ短調

チケット(税込) 一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円

U-25*(バルコニー席対象)1,500円 メンバーズ 正面席3,600円

*U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

てほしい』と彼からプレゼントされました」

次代へ伝えなければならない
武満作品の弾き方

最後のブラームスのヴィオラ・ソナタ第1番は、前述の第2楽章がポイントだ。「テーマが違う調子で何度も登場し、明確なフォームがない。それについて武満さんは、BBCのインタビューで『旋律の中に、人間の明るさ、暗さ、生きていくことの難しさがあり、それらが渾然となって、最後には昇華されて昇っていく』と語っています。そしてこのテーマの移ろう構成が、《鳥が道に降りてきた》と全く同じなんです。武満さんはそう言わなくとも、弾いてわかりました」

かように今回は、武満徹が全体の核となっている。「武満さんの曲は、印象派的で宙に浮いたようなイメージがありますが、私はもの凄く骨太だと思うのです。精神的な強いものがガンとしてある。大抵フワフワと弾かれますが、私は皆に『それは違う』と言っています。しかも彼が書いているのは全部“歌”。声で歌う歌ではなく、器乐的でも音楽自体が歌えるということですよ」

ホール初登場の彼女が「いい曲ばかり」と語る本公演。世界的名奏者が「次代へ伝えたい」音楽とその想いを、ぜひとも直に味わいたい。

*スル・ポンティチェッロ=駒の上を弓で弾く奏法。全体的な音が出る。
ピッツィカート=弦を指ではじく奏法。

Report

レポート

劇場へようこそ!

彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館では夏休みに合わせ、子どもたちの感受性を刺激する舞台を数多く企画。たくさんの(小さなお客様)にご来場いただいた、各公演の様子をお届けする。

埼玉会館ファミリー・クラシック
夏休みオーケストラ!
7.26(日) 埼玉会館 大ホール



飯森範親&朝岡聡&東京交響楽団による夏恒例の演奏会は今年で10周年。子どもたちは、《祝典序曲》の大音響にビックリしたり、楽器紹介のプログラムを熱心に見たり、《魔法使いの弟子》では物語にすっかり夢中に。舞台上で演奏するコーナーへの参加人数は過去最高! 音楽好きの子がさらに増えた嬉しい予感があった演奏会になった。

コンフェティ劇団『秘密のショートケーキ』
7.29(水)-8.2(日) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール



カナダ発の体験型エンターテインメント。子どもたちは、いくつもの部屋と小さな劇場を持つ巨大ケーキの中を冒険し、不思議な登場人物たちと出会い、ハエが演奏する音楽を聴き、お菓子を食べ……。5感を刺激する仕掛けが満載の〈甘い〉作品となった。

第78回 光の庭プロムナード・コンサート
夏休みスペシャル! ~オルガンとうたおう!~
中川紫音(オルガン)&岡村知由紀(ソプラノ)
8.1(土) 彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ



素朴で温かなポジティブオルガンの音色とソプラノの歌声によるコンサート。演奏を聴くだけでなく、みんなで《むらまつり》を歌ったり、客席から募った3つの言葉のリズムによる演奏をゲーム感覚で楽しみながら、オルガンの魅力に触れた。終演後にはオルガン・ワークショップを開催。オルガンの組み立てを見学する貴重な機会に。

サンクトペテルブルグ プラスチックハンドシアター“ハンドメイド”
『ハンドメイド』
8.4(火)・5(水) 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール舞台上



リズムに合わせて、腕・足・指を生き物のようにあやつりながら、車や飛行機、時計や鳥などの形を生み出していくユニークな世界は、とてもチャーミング。形ができると「○○だ!」と、子どもたちが声を上げる場面も。ロシアの若いカンパニーらしいはつらつとした作品であった。

Review

レビュー

MUSIC

アンサンブル・ウィーン=ベルリン
7.11(土) 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール



当劇場には9年ぶりの登場となった、木管五重奏の名門アンサンブル。すっかり世代交代を果たした新生EWBの初来日とあってチケットは早くも完売し、開演前の客席には期待があふれていた。新旧のレパートリーが巧みに組み合わせられた今回のプログラムのテーマは「#summer」。残念なことにオーボエのJ.ケリーが来日できなくなり、ウィーン・フィル首席のC.ホラークが代役を務めたが、1曲終わるごとにため息が漏れるほどのテクニックの見事さ、アンサンブルとしての精度の高さは言うまでもなく、豊かでまろやかな響き、音楽することの喜びが会場いっぱいに広がった。

PLAY

シェイクスピア・グローブ座
『ハムレット』
8.19(水)・20(木) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール



シェイクスピアが拠点としていたグローブ座を再現しようと、基金を集めてテムズ川岸に建てた野外劇場「シェイクスピア・グローブ座」。グローブ座は現在、世界205カ国での『ハムレット』上演を目指す世界ツアーを取行っており、124カ国目の日本へやってきた。俳優が楽器や歌やダンスもこなし、何役も兼ね、スピーディーに駆け抜ける演出は軽やか。カーテンの開閉を巧く利用し、早替わりで、旅役者とそれを観る王と王妃と同じ俳優でこなした劇中劇の場面は絶品! 舞台道具を運ぶケースも利用した、いかにも旅する一座による芝居という、シンプルな美術も楽しかった。

RAKUGO

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
~平成26年度彩の国落語大賞受賞者の会 立川談笑
7.18(土) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール



平成26年度 彩の国落語大賞を受賞した立川談笑の記念落語会。一席目は、骨董店で働くとんちんかんな与太郎をいきいきと描き出した『金明竹』。トリネタは古典『片棒』を放送禁止(?)な超過激、大胆アレンジを施した『片棒・改』だ。ケチな親父と3人の息子のやり取りを、しっかりと染み付いた技、実に気持ちの良い軽快なリズムで演じ、場内の大爆笑を誘った。ゲストで登場した兄弟子の立川談四郎はじっくりと聴かせる『一文笛』で、受賞に花を添えた。立川吉笑は新作落語『たぬきの見返しすぎ』、立川笑二は『真田小僧』を口演、弟子二人が師匠の会を盛り上げた。

PLAY

オックスフォード大学演劇協会(OUDS)
『ロミオとジュリエット』
8.22(土) 彩の国さいたま芸術劇場 小ホール



長い歴史を持つ、英国オックスフォード大学の学生劇団が来日。同性愛者の結婚が合法化された近未来の〈ヴェローナ〉を舞台とし、ロミオを女性が演じるという現代的なアプローチで、新たな愛の物語を立ち上げる試みだ。ランニングシャツやジャージにスニーカーと、スポーティーな衣裳を身にまとった登場人物による舞台は疾走感があり、若々しい。〈女の子〉として、そして〈存在〉としてジュリエットと惹かれ合うロミオは、普遍的な恋の衝動を感じさせる。オープニングから舞台上にある銀の箱は終幕に極となり、逃れられない悲劇の運命を暗示していたかのようだった。

PLAY DANCE MUSIC CINEMA

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ = 彩の国さいたま芸術劇場
 3歳以上のお子様から楽しんでいただける公演です。
 光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

PLAY

9.17(木)~10.4(日)
蜷川幸雄80周年記念作品 『海辺のカフカ』
 大ホール
 9.17(木) 18:30 26(土) 13:30/18:30
 18(金) 18:30 27(日) 13:30
 19(土) 13:30/18:30 28(月) 休演
 20(日) 13:30 29(火) 13:30/18:30
 21(月祝) 休演 30(水) 14:00
 22(火祝) 13:30/18:30 10. 1(木) 14:00
 23(水祝) 13:30 2(金) 18:30
 24(木) 14:00 3(土) 13:30/18:30
 25(金) 18:30 4(日) 13:30
 詳細はP.21

10.12(月祝)~31(土)
彩の国シェイクスピア・シリーズ第31弾 『ヴェローナの二紳士』
 大ホール
 10.12(月祝) 18:30 22(木) 14:00
 13(火) 14:00 23(金) 18:30
 14(水) 休演 24(土) 14:00/18:30
 15(木) 14:00 25(日) 14:00
 16(金) 18:30 26(月) 休演
 17(土) 14:00/18:30 27(火) 14:00
 18(日) 14:00 28(水) 14:00/18:30
 19(月) 休演 29(木) 14:00
 20(火) 14:00 30(金) 18:30
 21(水) 14:00 31(土) 14:00
 詳細はP.6-7

10.17(土)
彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~若手落語家競演会
 小ホール 開演14:00 詳細はP.21

11.21(土)~23(月祝)
パリ市立劇場 『犀』
 大ホール
 21(土)開演19:00 22(日)・23(月祝)開演15:00
 詳細はP.8-9

DANCE

10.11(日) 12(月祝)
【提携公演】第10回DMJ国際ダンス映画祭
 映像ホール 詳細はP.21

11.6(金) 7(土)
ボワヴァン／ウバン／ラリュール 『En Piste—アン・ピスト』
 小ホール
 6(金)開演19:00 7(土)開演15:00 詳細はP.10-11

MUSIC

9.26(土)
タンブッコ・パーカッション・アンサンブル
 音楽ホール 開演15:00
 詳細はP.21

9.27(日)
タンブッコ in セツ梅酒造跡
 セツ梅酒造跡 東蔵ホール(深谷) 開演13:00/16:00
 詳細はP.21

10.3(土)
光の庭プロムナード・コンサート第79回 恵みの秋～オルガンとヴァイオリンでおくる収穫祭～
 情報プラザ 開演14:00 *入場無料
 [出演]川越聡子(オルガン)、アンドリュウ・コウジ・テイラー(ヴァイオリン)
 [曲目]バッハ(ウイヘルミ編曲):G線上のアリア
 ヴィヴァルディ:《四季》より《秋》
 《夕焼け小焼け》による即興演奏
 クライスラー:ブニャーニの様式による前奏曲とアレグロ ほか

11.8(日)
NHK交響楽団
 下野竜也(指揮)、清水和音(ピアノ)
 さいたま市文化センター 大ホール 開演16:00
 詳細はP.22

11.15(日)
マリア・ジョアン・ピリス パルティトゥーラ・プロジェクト in 彩の国 若き俊英ゲーアンを迎えて
 音楽ホール 開演15:00 詳細はP.14-15

11.28(土)
彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第5回 今井信子 ヴィオラ・リサイタル
 音楽ホール 開演15:00 詳細はP.16-17

11.29(日)
ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.4 フランチェスコ・トリストアーノ
 音楽ホール 開演15:00 詳細はP.22

● …彩の国さいたま芸術劇場 休館日 ● …埼玉会館 休館日																				
2015 9 10 11																				
S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S	S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4	5				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30					

埼玉会館…9月中の休館日はありません。
 【改修工事のお知らせ】2015年10月1日(木)～2017年3月31日(金)の期間、
 埼玉会館は改修工事のため休館とさせていただきます。

CINEMA

彩の国シネマスタジオ
【全席自由・各回入替制・整理券制】
 大人1,000円/学生500円 [入場時に学生証をご提示ください]
 ※料金は当日現金支払いのみ

9.17(木)~20(日) 映像ホール
『はじまりのうた』(2013年/アメリカ/104分)
 [脚本・監督]ジョン・カーニー
 [出演]キアラ・ナイトレイ、マーク・ラファロ、
 アダム・レヴィーン(マルーン5) ほか
 17(木) 10:30/14:00/17:00
 18(金) 10:30/14:00/17:00
 19(土) 10:30/14:00/17:00
 20(日) 10:30/14:00

10.15(木)~18(日) 映像ホール
『グッド・ライ〜いちばん優しい嘘』
 (2014年/アメリカ/110分)
 [監督]フィリップ・ファラルド
 [製作]ロン・ハワード
 [出演]リース・ウィザースプーン、アーノルド・オージェン ほか
 15(木) 10:30/14:00/17:30
 16(金) 10:30/14:00/17:30
 17(土) 10:30/14:00/17:30
 18(日) 10:30/14:00



11.12(木)~15(日) 映像ホール
『みんなの学校』(2014年/日本/106分)
 [監督]真鍋俊永 [出演]大空小学校のみんな
 12(木) 10:30/14:00/17:30
 13(金) 10:30/14:00/17:30
 14(土) 10:30/14:00/17:30
 15(日) 10:30/14:00
 ※アフタートークあり、日時等、詳細はホームページにてお知らせいたします。



11.3(火・祝) 映像ホール
文化の日特別企画 映写機ワークショップ&上映会 『彩の国子どもシネマスタジオ』
 フィルムに傷や色をつけて映す“シネカリグラフィ”や16ミリの映写機を使ったフィルムでの映画上映を体験しよう!アニメ『未来少年コナン』の上映もお楽しみに!
11:00~14:30 各回2時間15分(休憩含む)予定
 [対象]小・中学生
 [定員]各回先着30名。定員になり次第締切。
 [参加費]有料。入場時に現金でお支払いください。
 ※定員外の方は見学のみの可。予約不要。有料。
 [参加方法] 要事前予約。応募期間10.1(木)~10.31(土)
 下記事項をご記入の上、メールにてお送りください。
 ①希望の回 ②お名前 ③学年
 ④付き添い(保護者)の方の人数 ⑤電話番号
 [申込先]子どもシネマスタジオ係 saitamaeigane@ybb.ne.jp
 [お問合わせ]上記のEメールアドレス、または、お電話048-762-9407
 ※料金等、詳細はホームページにてお知らせいたします。



PLAY DANCE MUSIC

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ = 彩の国さいたま芸術劇場
 *U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

PLAY

発売中
蜷川幸雄80周年記念作品 『海辺のカフカ』
9.17(木)~10.4(日) 大ホール
 [原作]村上春樹 [脚本]フランク・ギャラティ
 [演出]蜷川幸雄
 [出演]宮沢りえ、藤木直人、古畑新之、鈴木 杏、
 柿澤勇人、高橋 努、鳥山昌克、木場勝己 ほか
 チケット(税込)
 一般・メンバーズ:S席10,800円 A席8,700円
 ※本公演はメンバーズ料金の設定はございません。
 ※当日券については公演当日午前10時以降、財団チケット
 センターまたは財団ホームページにてご確認ください。
 各日開演時間はP.20

発売中
彩の国シェイクスピア・シリーズ第31弾 『ヴェローナの二紳士』
 詳細はP.6-7

発売中
彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~若手落語家競演会
10.17(土) 14:00 小ホール
 [出演]春風亭一之輔、夢吉改め三笑亭夢丸、
 立川志らら、立川らく菓
 ゲスト:立川志らく
 チケット(税込) 全席指定 一般3,000円
 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)2,000円
 メンバーズ 2,700円

発売中
パリ市立劇場 『犀』
 詳細はP.8-9

発売日 一般 10.17(土) メンバーズ 10.10(土)

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ~新春若手落語家競演会
2016年 1.15(金) 14:00 小ホール
 [出演]柳亭市馬(ゲスト) ほか
 チケット(税込) 全席指定 一般3,000円
 ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者)2,000円
 メンバーズ 2,700円



DANCE

当日販売
第10回DMJ国際ダンス映画祭
 [主催] Dance and Media Japan
 [提携] 彩の国さいたま芸術劇場
10.11(日) 映像ホール
 13:00~14:30 映画版「大野一雄について」
 上映+トーク(川口隆夫)
 15:00~16:30 石井達朗フィールドワーク映像上映+トーク
 17:00~19:00 国際ダンス映画祭プログラムA
 + キュレータートーク
10.12(月・祝)
 15:00~16:15 ボルトガルのダンス映画祭「インシャドウ」
 セレクション上映
 16:30~18:30 国際ダンス映画祭プログラムB
 + キュレータートーク
 チケット(税込) 1日券 1,000円
 ※事前予約の必要はございません。当日窓口にてお買い求め下さい。
 [詳細・お問合わせ] DMJ国際ダンス映画祭
 http://www.dance-media.com/videodance/2015/index.html

発売中
ボワヴァン／ウバン／ラリュール 『En Piste—アン・ピスト』
 詳細はP.10-11

発売日 一般 10.10(土) メンバーズ 10.3(土)
インバル・ピント&アヴァジャロム・ボラック 『DUST—ダスト』
 詳細はP.12-13

MUSIC

発売中
タンブッコ・パーカッション・アンサンブル
9.26(土) 15:00 音楽ホール
 [曲目] ライヒ: 木片の音楽
 J.S. バッハ: 《フーガの技法》より
 ホルヘ・カミリアガ: ちびっこコンガのための四重奏曲
 三木 稔: マリンバ・スピリチュアル
 ミゲル・ゴンザレス: タンブッコのプレリアス ほか
 チケット(税込) 全席指定 一般3,500円
 U-25*1,500円/メンバーズ3,200円

発売中
深谷公演 タンブッコ in セツ梅酒造跡
9.27(日) 13:00/16:00
 ※公演時間約1時間を予定
セツ梅酒造跡 東蔵ホール(深谷市)
 [曲目] ポール・バーカー: 石の歌、石の踊り
 リカルド・ガヤルド:
 Sake Music (for sake barrels) (新作初演)
 ティエリー・デュ・メイ: テーブルの音楽 ほか
 チケット(税込) 全席自由
 一般1,500円/小・中学生1,000円

Tickets チケット

発売中

NHK交響楽団 下野竜也(指揮) 清水和音(ピアノ)

11.8(日)16:00

※埼玉会館休館中により別会場で開催いたします。ご注意ください。

さいたま市文化センター 大ホール

※開演前15:25～15:40に、指揮者下野竜也氏による

プレコンサートトークを予定しております。

【曲目】ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第3番 二短調 作品30
ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 作品92

チケット(税込)

一般 S席6,500円 A席5,000円 B席4,000円

U-25*(B席対象)2,000円

メンバーズS席6,000円 A席4,500円 B席3,600円

発売中

マリア・ジョアン・ピリス バルティウーラ・プロジェクト in 彩の国 若き俊英グーアンを迎えて

☞ 詳細はP.14-15

発売中

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第5回 今井信子 ヴィオラ・リサイタル

☞ 詳細はP.16-17

発売中

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.4 フランチェスコ・トリスターノ

11.29(日)15:00 音楽ホール

【曲目】トリスターノ：KYEOTP
バッハ：パルティータ第1番 変ロ長調 BWV825
バッハ：パルティータ第6番 ホ短調 BWV830
トリスターノ：主題と変奏(新作世界初演)
バッハ：パルティータ第2番 ハ長調 BWV826
トリスターノ：シャコンヌ(グラウンド・ベース)

チケット(税込)

一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円

U-25*(バルコニー席対象)1,500円

メンバーズ：3,600円

発売中

バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル《メサイア》

12.20(日)15:00 音楽ホール

【出演】鈴木雅明(指揮)、シェレザード・バンタキ(ソ
プラノ)、クリストファー・ローリー(アルト)、ダン・コーク
ウェル(テノール)、ベンジャミン・ベヴァン(バス)

チケット(税込)

一般 正面席8,000円/バルコニー席7,000円

U-25*(バルコニー席対象)3,000円

メンバーズ 正面席7,200円

発売日 一般 10.3(土) メンバーズ 9.26(土)

佐藤俊介の現在 Vol.2 ドイツ・ロマン派への新たな眼差し

2016年 2.13(土)15:00 音楽ホール

【曲目】
ファニー・メンデルスゾーン：ピアノ三重奏曲 作品11 より
フェリクス・メンデルスゾーン：
弦楽四重奏曲第6番 ヘ短調 作品80
クララ・シューマン：

ヴァイオリンとピアノのための3つのロマンス 作品22

ローベルト・シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44

チケット(税込)

一般 正面席4,500円 バルコニー席3,000円

U-25*(バルコニー席対象)1,500円

メンバーズ：4,100円



Photo: Mark Daams

発売日 一般 10.3(土) メンバーズ 9.26(土)

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.5 福岡洸太郎

2016年 2.20(土)15:00 音楽ホール

【曲目】ドビュッシー：映像第2集
武満 徹：フォー・アウェイ
バッハ(福岡編曲)：憐れみたまえ、我が神よ(《マタイ受難曲》より)
武満 徹：リタニー・マイケル・ヴァイナーの追憶にー ほか

チケット(税込)

一般 正面席3,500円 バルコニー席2,500円

U-25*(バルコニー席対象)1,000円/メンバーズ：3,200円



Photo: Marc Bouhiron

発売日 一般 11.7(土) メンバーズ 10.31(土)

彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画 「次代へ伝えたい名曲」第6回 小山実穂恵 ピアノ・リサイタル

2016年 3.5(土) 14:00 音楽ホール

【曲目】シューベルト：即興曲集より
バルトーク：ピアノ・ソナタ Sz.80, BB 88
レノン&マッカーサー (武満徹編曲)：ゴールデン・スランパー
ショパン：ポロネーズ第6番「英雄」 ほか

チケット(税込)

一般 正面席4,000円 バルコニー席3,000円

U-25*(バルコニー席対象)1,500円/メンバーズ：3,600円



Photo: ND CHOW

INFORMATION

【観覧募集】 県民の日コンサート

～埼玉から世界に響き渡る美しいソプラノを～

埼玉県では、11月14日(土)の「県民の日」に、平成26年度下総統一音楽賞受賞者による「県民の日コンサート」を開催します。

今回は、西欧と日本において数多くのオペラやリサイタルに出演され、日本が誇るソプラノとして活躍中の佐藤美枝子氏が出演します。どうぞお楽しみに!



Photo: 武藤 幸

【日時】11.14(土) 開場14:30 開演15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【出演者】佐藤美枝子氏(ソプラノ：平成26年度下総統一音楽賞音楽文化発信部門受賞)
河原忠之氏(ピアノ)

【入場料】無料(全席自由・要入場整理券)

【申込方法】ハガキ、FAX、電子メール、ホームページで受け付けます。

①代表者の氏名、ふりがな、郵便番号、住所、電話番号、

②代表者を含む観覧希望者全員の氏名、ふりがな(4名まで可)を記入してください。

※10月14日(水)必着

※定員600人。申込多数の場合は抽選の上、10月28日(水)までに入場整理券を送付します。

【申込先・お問合わせ】

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

埼玉県文化振興課「県民の日コンサート係」宛て

TEL.048-830-2882(平日8:30～17:15)

FAX.048-830-4752

E-mail.a2875-05@pref.saitama.lg.jp

http://www.pref.saitama.lg.jp/a0305/kenmin-concert.html

電子申請・届出サービスページへ



メンバーズに入会すると便利で楽しい特典がいっぱい!!

年会費2,000円

特典① メンバーズ料金

財団指定の公演をメンバーズ料金で
ご覧いただけます

特典② 優先予約

一般発売よりも先に公演のチケットを
ご予約いただけます

特典③ チケット購入はキャッシュレス

チケット代、年会費は便利な口座引落し

特典④ 財団情報誌をお届け

公演情報満載の「埼玉アーツシアター通信」
をお送りします

特典⑤ チケット送料無料

販売チケットは「安心のセキュリティパック
(補償付き)」でお届け

特典⑥ プレオーダー

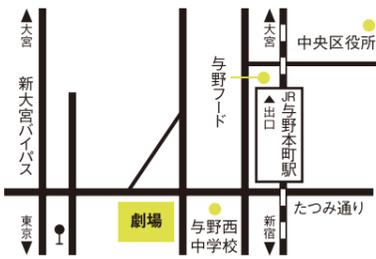
人気の公演では優先予約に先駆けて
プレオーダーを実施 ※プレオーダーは抽選

ご購入希望の方は、

メンバーズ事務局 Tel.048-858-5507(彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く10:00～19:00)

ACCESS

彩の国さいたま芸術劇場



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1

電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515

●電車でのアクセス

JR埼京線と野本町駅(西口)下車 徒歩7分

●バスでのアクセス

JR京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き

「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4

電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477

●電車でのアクセス

JR宇都宮線・高崎線・京浜東北線・湘南新宿ライン

浦和駅(西口)下車 徒歩6分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

【サポーター会員】

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財)埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株)野野フードセンター/株亀屋/株松本商会
(有)香山壽夫建築研究所/埼玉新聞社
テレビ埼玉ミュージック/埼玉りそな銀行

(株)パシフィックアートセンター
(株)アサヒコミュニケーションズ

FM NACK5/東京ガス(株)
カヤバシステム マシナリー(株)/株タムロン

(株)十万石ふくさや/森平舞台機構(株)
東芝エルティエエンジニアリング(株)

埼玉トヨタ自動車(株)/齋賀設計工務
武蔵野銀行/浦和ロイヤルパインズホテル

アルピーノ村/国際照明(株)
埼玉スバル/桶本興業(株)/株佐伯紙工所

(株)太陽商工/株しまむら
(有)六辻ゴルフセンター/不動産開発(株)

ピストロ やま/埼玉県信用金庫
(株)栗原運輸/彩の国SPグループ

(有)プラネット/関東自動車(株)/株デサン
セントラル自動車技研(株)/丸美屋食品工業(株)

ポラスグループ/ひがし歯科
埼玉トヨペット(株)/公認会計士 宮原敏夫事務所

(株)価値総合研究所/株埼玉交通
医療法人 顕正会 連田病院/株ウイズネット

サイデン化学(株)/アイル・コーポレーション(株)
五光印刷(株)/旭ビル管理(株)

ヤマハサウンドシステム(株)
(株)エヌテックサービス/株クリーン工房

(株)つばめタクシー/株サンワックス
(株)綜合舞台/株タクトコーポレーション

財団さいたま住宅検査センター
(株)国大セミナー/株NEWSエンターテインメント

オーガスアリーナ(株)/イープラス
六三四堂印刷(株)/医療法人 榎会 林整形外科

埼玉県整形外科医会
医療法人社団 山祥会 山崎整形外科

サンケイリビング新聞社/株三和広告社
(株)セノン/ショップパー/株松尾楽器商会

JA埼玉県中央会/日本大学芸術学部
(株)川口自動車交通/株ホンダカーズ埼玉

ファミリーマートあすまや/南杉田電機
丸茂電機(株)/太平ビルサービス(株)さいたま支店

(株)片岡食品/株協栄/株ヨコハマタイヤジャパン
NTT東日本 埼玉事業部/チャコット(株)

(株)平和自動車/光陽オリエントジャパン(株)
埼玉建設(株)/さくら Music Office

クワバラ・パンぷキン/駒橋内科医院
東和産業(株)/テレビ埼玉

日本ビストロリング(株)/金井大道具(株)
国立大学法人 埼玉大学/株七越製菓

ビーンズ与野本町/ (一社)埼玉県経営者協会
(株)コマーム/株原一探偵事務所

(株)ファーストハウジング/飯能信用金庫
川口信用金庫/青木信用金庫/美術商(株)つくば

(株)和幸楽器/淑徳与野中学・高等学校
2015.8.25現在/一部未掲載

お問合わせ
(公財)埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当

TEL 048-858-5507

どっちつかずの天使

VOL.3



画●磯良一

もちろん、もちろん、もちろん！

文●岩松了

私の前を歩きながら携帯電話を握りしめるようにしてしきりに話し続けている人がいた。スーツ姿で、昼間の時間だったから、何かの営業の人に違いなかった。私も駅までの道を急いでいたので、大変だろうな営業も、などと思いながらその人を追いついた。その時、その人が電話に向かって、こう言ってるのが聞こえた。

「もちろん、もちろん、もちろん！」

もちろんを3回続けてだ！ 私は瞬間的にその電話を受けている人のことを思った。「あ、だまされてる！」そう思ったのだ。この営業マンは完全に相手を巻き込もうとしている！ だって「はい、もちろんそのとおりです」と言うなら、もちろんは1回で充分だろう。それが、たたみかけるように3回も！ 物知らずな私としては、物知らずゆえに口車に乗せられてしまった自分の過去が一瞬のうちに脳裏に広がり、「ああこういった奴らがオレをだましたのか！」と、ついさっきの「営業も大変だろうな」という思いは雲散霧消した。なんて暴力的なんだ「もちろん、もちろん、もちろん！」だなんて！ よく分からないから「～ですか？」と聞いているのに「もちろん、もちろん、もちろん！」はないだろ!? オレはまだ、もちろんの手前なんだ！ もちろんの前に、まだ知らなきゃならないことがいっぱいあるんだ！ ああ、こんなふう^{けつまず}に人を巻き込もうとしている奴なんか、石に蹴躓いて転べばいい！

振り向けば営業マンはもう半ば薄ら笑いで、そうですそうですばかりに肯定のうなずき。ああ、相手は口車に乗ってしまったのだ！ 営業マンの目は私と目が合っているのに、電話している人間独特の目、見えているものを見てはいない。私の敵視に気づこう筈もない。

「おい！ 気をつけるよ！」

ぶつかりそうになった私の体を押した見知らぬ人。

石に蹴躓くのは、物知らずな人間なのだ、というのが世の相場らしい。

いわまつ・りょう

劇作家、演出家、俳優、映画監督と幅広く活躍。

さいたまゴールド・シアター『船上のピクニック』『ルート99』の劇作を手掛けた。
11月シアターコクーン・オンレパトリー2015『青い瞳』（作・演出）が上演予定。